



監修：  
ICT CONNECT 21

## 教員研修の活用事例

高木 清・岡田祥成  
株式会社ネットラーニング 教育事業部  
(ICT CONNECT 21特別会員)

今年の3月に幼稚園の教育要領と小・中学校の新学習指導要領が公示され、高等学校でも平成34年度入学者から新しい学習指導要領に基づいた授業を実施することが予定されている。情報活用能力の強化の方向性を踏まえ、授業においてタブレットが活用される場面や、校務支援や教務支援システムの導入を通じた校内業務の効率化などの導入成果は、様々な報告会や研究会で耳にすることが増えてきたように感じる。その一方で、教員研修にもICTの導入が進められていることはご存知だろうか。本稿ではその事例をいくつか取り上げて、考察を深めてみたいと思う。

### Ⓧ 教員研修における背景と課題認識

教員研修は、教育公務員特例法（以下、教特法）第22条1項に、「教育公務員には、研修を受ける機会が与えられなければならない」とあり、その機会が教員に対して等しく与えられている。しかしながら、高等学校は小・中学校に比べると、教科の専門性が高くなっていることによる授業の準備にかかる負荷の増加、また生徒の進路進学指導など高校教員ならではの職務が加わってくることから、教員によって仕事量の差が生まれ、実際にはなかなか等しくとはいかないことがあるようにも見受けられる。また、旧教育職員養成審議会第三次答申（平成11年12月）によると、教員研修の問題点は、講義形式による画一的な研修カリキュラムと受動的研修姿勢にあると指摘している。これらの課題を解決する手法としてICTの活用がある。

### Ⓧ 校内研修シリーズ

一つ目は独立行政法人教職員支援機構が提供する「校内研修シリーズ」である（NITS 校内研修シリーズで検索）。このシリーズは教職員に対して新しい時代に求められる資質能力の育成や、そのために必要なアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善などの新たな時代に必要に対応を考慮したとき、幼稚園教員から高等学校教員まで100万人以上にも上る現職教員の研修の意義はとりわけ大きく、また早急に体制を整備す